

様式3 【物・文化財・風景など実体のあるもの】

ふくしまの森林文化調査カード

県 HP公開 (可・ 否)

区 分	1. 森づくり 4. 森と暮らし	2. 森の恵み 5. 森の文化財	3. 森と技 6. 森の風景
分野 (ふりがな)	(分野) 天然記念物	(ふりがな) てんねんきねんぶつ	
地域独特の呼び方	—	—	
タイトル	アカミノアブラチャン		
伝承地域	只見町大字長浜字後山 1794-59		
由来 (年代)	(いつ、どこで、誰によって起こり、どのようにして現在まで (いつまで) 伝えられてきたか) 1180年(治承4年)、高倉宮以仁王が越後へ都落ちする際に只見町長浜地区で平家の追手と交戦となり、その時散った血汐がアブラチャンの実を赤く染めたという伝説がある		
内 容	(内容と共に、行事・祭りの場合は実施の時期、郷土料理の場合レシピなども) アブラチャンは、全国の山野に自生又は植生するクスノキ科クロモジ属の落葉低木である。実に油が含まれていることから、このような名となっている。 アブラチャンの実には緑色をしているが、アカミノアブラチャンは赤い実をつけるアブラチャンの変種で、全国でも只見町長浜地内だけに自生している貴重な品種である。町の人々はこれをジサガラと呼び、その果実をジサガラボッコと呼んでいる。一株から多数の幹が叢生し、樹勢は旺盛である。 昭和39年、只見町長浜の吉津愛一郎氏が発見、翌年、福島大学小林勝教授が鑑定を行い、アカミノアブラチャンという和名を付けた。同年、植物学者大井次三郎氏が同定を行い学名を命名し、アブラチャンの変種として登録された。		
大きさ・材質	(大きさ: 緑の文化財、巨木、建造物などスケールが情報として有用なもの) 幹周 10~17cm、樹高 3.3m	(材質) アブラチャン	
見 頃	(緑の文化財、巨木など特定の時期に見頃が訪れるもの。) 果実は7月中旬から下旬にかけて、赤く結実する		
交通アクセス	JR只見駅から国道289号線を南会津方面へ車で10分		
文化財等の指定状況	昭和58年只見町天然記念物指定		
問い合わせ先	只見町教育委員会	電話0241-82-5320	

【フリーフォーマット】

キーワード

<アカミノアブラチャン>



(只見町教育委員会)



(只見町教育委員会)